
俺が世界を変えてやる

ナイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺が世界を変えてやる

【Nコード】

N6359Y

【作者名】

ナイン

【あらすじ】

人間が大嫌いな会社員、青野 空は神から特殊な能力を授かる。その能力で腐った世界の世直しを始める。

始まり

人間が大嫌い。

暴力、殺人、裏切り、自己中、身勝手、地球汚染などなど…。

だから人間が大嫌い。

兵庫県に住む会社員、青野^{あおの} 空^{そら}は人間の悲しい行動を見るたびに、自分の不甲斐なさを悔やむ。

空は県内の高校で送迎バスの運転手をしていた。朝は6時に高校に出勤し、バスの清掃から勤務は始まる。

清掃中に後部座席からはスナック菓子のゴミやペットボトルが無造作に捨てられている。タバコの吸い殻さえ落ちていることもあった。

それらを6時半までには綺麗に片付けて、7時には学校から一番遠いバス停に到着しておかなければならない。

バス停から生徒が乗車する際にあいさつなど言われたことがない。基本は無言だ。最近の子は本当に他人に興味がない。

学校に到着するとドアを開けるまで1人も腰を上げない。ドアを開けると無言で降りていく。

空は朝の仕事を終えた後、夕方の送迎時間まで一旦家に帰る。昼過ぎにまた出勤するのが空の毎日だ。

給料は安いが誰とも話をしなくて良いところが空はこの仕事を気に入っていた。

一日の業務を終え、マイカーで帰宅途中にある光景を目にした。

自動販売機の前で4人の中学生が集まっていた。その中の1人が自動販売機の見本商品に向かって飛び蹴りをし始めた。もちろん壊すつもりはないのだろうが、蹴りたいらしい。

残りの中学生は2人でもう1人の子の首を絞めている。さっきまで自動販売機を蹴っていた子は、歩道から車道に出て助走をつけて首を絞められていた子に飛び蹴りをくりだした。

いじめられている中学生の男の子は大きく咳をしながら地面にうずくまった。その光景を残りの中学生は腹を抱えて笑っている。

空はたまたま信号待ちでその一部始終を見ていた。それに気づいた1人の中学生が空の車の前に手を大きく広げて立ちはだかった。

「おい！何見とんねんボケ！降りてこいや！」

中学生相手にここまで舐められるなんて情けない。ただ、ここで車を降りて問題に発展したとき、損をするのは間違いなく自分だ。未成年なんて相手にするべきではない。

空はクラクションを鳴らし続けた。その行動に対し、前にいる中学生は車のボンネットに唾を吐き、暴言を吐きながら戻っていった。

悲しい…。なぜこんな生き物が地球上で1番繁殖してしまったのだろうか。人間は偉いのか？頭がいいのか？強いのか？

俺が神ならこの地球上を無に戻してやるのに。

その時、空のめったに鳴らない携帯電話が鳴った。

「ご当選おめでとうございます。厳正なる抽選の結果、青野 空様
がご当選されました。詳しくは、使いを向かわせましたのでご確認
ください。」

何の抽選だろうか？空には覚えがなかった。何かの悪戯だろうと思
ったとき後部座席に違和感を感じ振り返った。

そこには真っ白の猫がじっと空を見つめていた。

告白

真っ白の猫がじっと空を見つめていた。

「どっから入ってきたんだ!？」

周りを見渡すと後部座席の窓が全開になっていた。

「なんだ。ずっといたんだな。」

空は猫を追い出すため、車を道路の左脇に止めた。そして猫を捕まえようと振り返ると、その猫は微動だにせず、まっすぐと空を見つめていた。

猫の目は淡いブルーで瞬きもせず空を見ている。その姿に空の手が止まった。

「こんなに見つめられたのは久々だな。」

なんとなく居心地がよくなってきた空は、ずっと誰かに聞いてもらいたかった心の中に溜まっていた本心を話したくなった。

「あのさあ、さっきの中学生たちのこと、お前も見えたか？あれをいじめって言うんだ。でもやられてたやつ、その場から逃げなかったし笑ってただろ？あれは自分がいじめられてるって認めたくないからなんだ。あの子見てると自分の中学時代を思い出すよ。俺もあんな風にいじめられてたんだ。でも親とか周りにいじめられてるって思われたくなくて笑ってた。だからさっきの子と俺は同じってわけ。だからなんとかして助けてやろうと思ったんだ。だけど勇気が

なくってさ…、今の中学生って怖いだろう？自分がまだ未成年ってことを最大限に武器にして向かってくるし、結局は馬鹿を見るのは大人なんだ。悪事を正す正義の味方になるには荷が重いんだよね…。」

空の目にはジワリと涙があふれ出してきた。もう空は止まらない。

「そもそも俺は人と関わるのが嫌いなわけじゃないんだ。でも少し苦手かな。なんか俺って人から好かれたいんだ…、だから最初は良くてもだんだん青野 空っていう人間がわかってくるとみんな距離をとってくる。わかってる…俺にも問題はあるんだ。人に嫌われるのが怖いから楽しいふりをしていたから、上辺だけで付き合っていたから。でもやっぱりそんなの上手くいくわけないから…。今の仕事って2社目なんだ。前の会社では…。」

謎の猫はまるで人間の言葉がわかるかのようにジッと空の話を聞いている。

「前の会社では勤続年数が増すごと1人で過ごす時間が多くなっていたんだ。休憩時間でも自分から誰かに話しかけることもなくなっさ、携帯とか操作もしてないのに見てるふりしてさ。自分は周りの奴らを見下したりもしてたっけ、誰かと一緒にいることで自分は人気者、友達が多いってアピールしてるだけなんだろうってさ。だから俺はそんなくだらしないことはしない。マイペースこそが男前だ！とかなんとか自分を納得させて…。誰からも相手にされなくて本当はさみしかったのかもしれない。俺も誰からも愛される存在になりたかったんだ。そんな存在に…：ううう。」

とうとう声を出しながら空は泣き始めた。

「今の仕事もう辞めたいんだ…。もっと毎日楽しくて、明るくて

愛のある職場で働きたいよ…。」

その時、猫の目から一滴の涙がこぼれた。驚いた空にさらに衝撃が訪れた。

「さぞ辛い人生を歩んできたんですね。私ももらい泣きをいたしました。」

聞き間違いではない。間違いなくこの猫から声がする。

「あいさつが遅れました。私、神の使いのグラスと申します。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6359y/>

俺が世界を変えてやる

2011年11月20日17時00分発行